

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	南あわじ市立御原中学校	研究グループ名 (三原金曜会)
	教諭 浜浦 晃安	

研究テーマ分類番号 (17)

(1)研究テーマ

「青少年のための科学の祭典」を通して小中学校理科担当教員としての資質を高める

(2)研究経過及び具体的な取組

- 6月29日(金) 三原金曜会 発会式 兼 「青少年のための科学の祭典」担当実験会
- ・実施場所及び人数：組合立広田中学校 及び 4人(講師含む)
 - ・講師：柳学園中学高等学校理科教員
 - ・内容：広田中学校を会場に、講師をお迎えし、夏の『科学の祭典』に向け、担当ブースの実験を行う。
例年、スライムをつくるブースを担当していたが、科学の祭典の実行委員会からの安全面での指摘を受け、ひょうご大会では、すべての会場で「スライムづくり」を中止することになった。講師先生の助言で、CD(DVD)-R等の廃棄物を利用した『回すと色のつくコマ』をつくることになった。その試作を主に 自作実験を実施した。
ビー玉の取り付け方法の試行錯誤をしてみ、ホットボンドで取り付けることが手軽で待ち時間も少ないという点で採択された。
また、構成員の担当するブースである『アルコール船をつくろう』『ワイングラスをならそう』も、毎年の実験ながら、初めて担当する者も居り、実際に製作してみた。アルコール船は、ごく短時間ででき、子どもたちに興味を持たせることができそうなものづくりであった。
 - ・成果：ベンハムのコマの試作ができた。
- 8月18日(土)・19日(日)「青少年のための科学の祭典ひょうご大会」参加
- ・実施場所及び人数：イオン淡路店 4人
 - ・内容：8月18日(土)・19日(日)にイオン淡路店で開催された「青少年のための科学の祭典ひょうご大会」(淡路会場)に参加。
本研究チームの構成員は、コマづくり、しょうのうの昇華を利用した船、ワイングラス・共振鍋の音実験、に分かれて3つのブースを担当した。イオン淡路店(旧サティ淡路店)での開催は3年ぶりであり、心配していた来場者数も非常に多く、盛況であった。
講師先生より、両日とも、会場でご指導をいただき、安全でたのしい実験ブースを開くことができた。また、その場で適切な助言をいただき、改善することもできた(コマづくり)。
子どもたちの中には、毎年の『科学の祭典』を楽しみに参加している子もいる。お盆の帰省で親戚に来ている子もあり、南あわじ市・洲本市内の子どもたくさん来場していた。また東京等からの帰省している子もいた。科学の持つ子どもへの興味付け力の実際を見た気がした。
 - ・成果と課題：来場した子どもたちへ、科学(理科)に対する興味を高めることができた。